

地球規模課題への アプローチ

科目情報 社会・国際学群「学群グローバル科目群」

開設学期・曜日時限 秋 AB 月 3, 4

担当教員 関根 久雄

筑波大学は、国連が提唱し持続可能な成長の実現を目指す世界的な取組み「国連グローバル・コンパクト (UNGC)」へ、2017 年 8 月に日本の国立大学として初めて加盟しました。

本学の取組の一つとして、2018 年度より本授業を開設しています。

◆ 今、私たちが取り組むべき「地球規模課題」

筑波大学の「基本的な目標」には「地球規模課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材の創出を目指す」とある。

では、「地球規模課題」とは何か？ それに取り組む「グローバル人材」とはどのような人材か？

さまざまな考え方、立場、アプローチがあると思われるが、ひとつの指針として「国連」の取り組む課題に集約されていると考えることもできる。

国連の各機関および国連と協業しながら活動を進めるさまざまな団体、研究機関、NGO、NPO、企業などが、どのような課題に取り組んでいるのか、どのような活動をしているかを知ること、現在、そして未来に向けての取り組むべき課題の現状を正確に理解することができる。

本講義では、さまざまな国連機関の駐日代表事務所、およびそれぞれの立場から地球規模課題に取り組んでいる開発銀行や国際協力団体、企業から週替わりで講師を招き、各課題に関する問題意識、実状、および課題解決への様々な試みなどを紹介していく。

学生個々人の興味や学習テーマと、それらの課題がどのように結びついて行くかを各々が深く考えることにより、それらを「自らの課題」として捉え、それぞれの立場で行動していくきっかけとしていきたい。

持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals :SDGs とは

国際社会は今、2015年に国連が制定した持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)を基に、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境等、様々な分野の広範な課題に統合的に取り組んでいる。この2030年を期限とする包括的な17分野の開発目標に対し、先進国・途上国を問わず各国政府、民間企業、NGO、有識者をはじめ、私たち一人ひとりが、それぞれの立場で役割を果たすことが求められている。



◆ 授業の概要

| 講義日時 | 講義タイトル | | 講師名 | 所属・役職 |
|--------|--------|---|-------------------|---|
| 10月5日 | 第1回 | 国境を超える企業の役割 ～国連グローバル・コンパクトと2030アジェンダ～ | 氏家 啓一 | グローバルコンパクト・ネットワークジャパン 事務局次長 |
| 10月12日 | 第2回 | 「成果」とは何か～「支援」と「ビジネス」のはざまで、 Result-Based Approachesを考察する～ | 三浦 雅子 | 株式会社クニエ コンサルタント、元特定 非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム |
| 10月19日 | 第3回 | 世界の難民問題 －UNHCRの取り組み－ | 古本 秀彦 | 国連難民高等弁務官駐日事務所 渉外担当官 |
| 10月26日 | 第4回 | 日本経済と国際社会の「共創」 ～ BOPビジネスの現在 | 井上 直美 | 東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター 特別研究員、元JETROアジア経済研究所 |
| 11月2日 | 第5回 | 日本政府の取り組み及び穏健イスラム国家モロッコの地球規模課題(移民、テロ)対策 | 黒川 恒男 | 元JICA理事、元モロッコ特命全権大使 |
| 11月16日 | 第6回 | 世界の食料安全保障の現状とFAOの活動について ※講師変更の可能性あり | ンブリ・チャールズ・ ポリコ | 国際連合食糧農業機関駐日連絡事務所 所長 |
| 11月30日 | 第7回 | 地球規模課題へのアプローチ、民間企業の取り組み (総合商社を中心に) | 鶴見 邦夫 | 元住友商事グローバルリサーチ(株) 広報担当部長 |
| 12月7日 | 第8回 | 企業の目指す戦略的社会的貢献(CSR)とは ～環境問題をはじめとする非営利活動の現場から～ | 倉光 恭三 | 公益社団法人日本フィランソロピー協会 常務理事、元双日 |
| 12月14日 | 第9回 | 万人のための教育と学びを通じた地域づくり | 大安 喜一 | ユネスコ・アジア文化センター 教育協力部長 |
| 12月21日 | 第10回 | 紛争国での人道・開発支援：国連と世界銀行の取り組み | 黒田 和秀 | 開発コンサルタント、元世界銀行 上級業務担当官 |

◆ 講師のことば



ンブリ チャールズ ポリコ 講師

国際連合食糧農業機関(FAO)駐日連絡事務所 所長

約30年前日本への留学を決めた理由の一つが、日本の開発について学びたい、という点であった。他の先進国は、自国の自然資源を活用したり、他国から搾取することによって経済発展を成し遂げたが、日本は教育・人材育成に焦点を当てることでその経済発展を成し遂げたと考えている。

そのような視点から見ると、現在の地球規模課題の原因の一つに、良いリーダーの不在が考えられる。これは、問題を地元レベルのみならず国際的な視点でも理解し、適切に行動できる人を指す。同時に、自分の地域・国とは全く無関係な場所で発生している問題についても、自分の庭先で発生している

かのように考え、行動することも必要である。そのような対処は、常に問題が拡大する前に解決することを可能にする。2030年までに達成すべき持続可能な開発目標(SDGs)、そのモットーである“No one left behind”のためには、まさしくこのようなcompassion, empathyのあるリーダーが望まれるところであり、これはAIでは補えない。

FAOが担当する食料・農業部門は、全てのSDGsに不可欠な要素であり、その分野での問題を、compassion, empathyをもって対処していくことが、SDGs達成の重要なカギである。若い皆さんは一生懸命学び、そして自国だけでなく、国際社会の場での活躍出来る、このような「グローバル人材」を是非目指して欲しい。